

自駒妃登美の
なでしこ
歴史物語
12

日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

しらこまひとみ
博多の歴女 白駒妃登美

兵を鼓舞する雄渾の歌

——表現力豊かな歌人・額田王

②

✿ 人生を変えた古文の授業

前回お話ししたように、私は幼いころ、日本にあまりいい印象を持っていませんでした。必要以上に周囲の目を気にしたり、あるいは海外に比べて女性が窮屈きゆうくつに生きている印象があったからです。

そんな私の「日本観」を変えてくれたのが、高校の古文の授業でした。

私は大学まで一貫教育の高校に通っていたので、受験対策に追われる雰囲気はなく、のびのびと勉強していました。先生方もわりと自由に授業をされていた気がします。中でも私の日本観、そして人生を変えてくださったのが、古文の先生です。

先生は和歌の口語訳や語法・文法だけでなく、この歌を詠んだのはこんな人で、こんな人生を送ったんですよ」といったお話をしてくれました。それが本当におも

しろくて、私はあつという間に『万葉集』ファンになってしまいました。古いにしへの女性ってなんて伸びやかに自己表現していたんだろう、そう感じたんですね。

その代表格が額田王ぬかたのおおきみなのですが、彼女は女性らしい恋愛の歌も見事な一方、勇敢な、気概あふれる一面も持っています。私は高校時代、額田王ぬかたのおおきみのある歌に出会い、とても驚いた経験があるんです。

✿ さあ今こそ出陣だ！

それは、こんな歌でした。

熟田津にきたつに 船乗りふなのせむと 月待つきまてば
潮しほもかなひぬ 今いまは漕こぎ出いでな

——ここ熟田津にきたつに集う兵士たちよ、船出をしようと月を待てば、潮流もよい具合になってきた。さあ今こそ出陣だ！

そんな内容です。前回の恋の歌とはうって変わって力強く、勢いがあり、雄渾ゆうこんの気

額田王 (生没年不詳)

「万葉集」(西暦7世紀ごろ編纂)初期の代表的歌人。その歌は雄渾で優艶ゆうえんといわれる。大海人皇子おほあまのおうじの妻となるも、その後、中大兄皇子なかつおおえのおうじの妻となる。

【イメージイラスト】
アオジマイコ